

「開拓碑」

兵庫県小野市・草加野開拓地

兵庫県の中南部に位置する小野市は、北播磨の中心都市で人口約5万人。多くの企業が本社・事務所を置いている。農業は水稻を中心とする耕種と酪農や養鶏などの畜産がバランス良く営まれている。戦後、県内でも開拓地が集中した地域であり、開拓農協が6組合設置された。

開拓地のうち、東部の草加野（そうかの）地区は現在の大開（だいかい）町に位置する扇状台地だった。用水難のある原野に、1946（昭和21）年から47年にかけて、旧満州からの帰還者ら40戸余りが入植した。

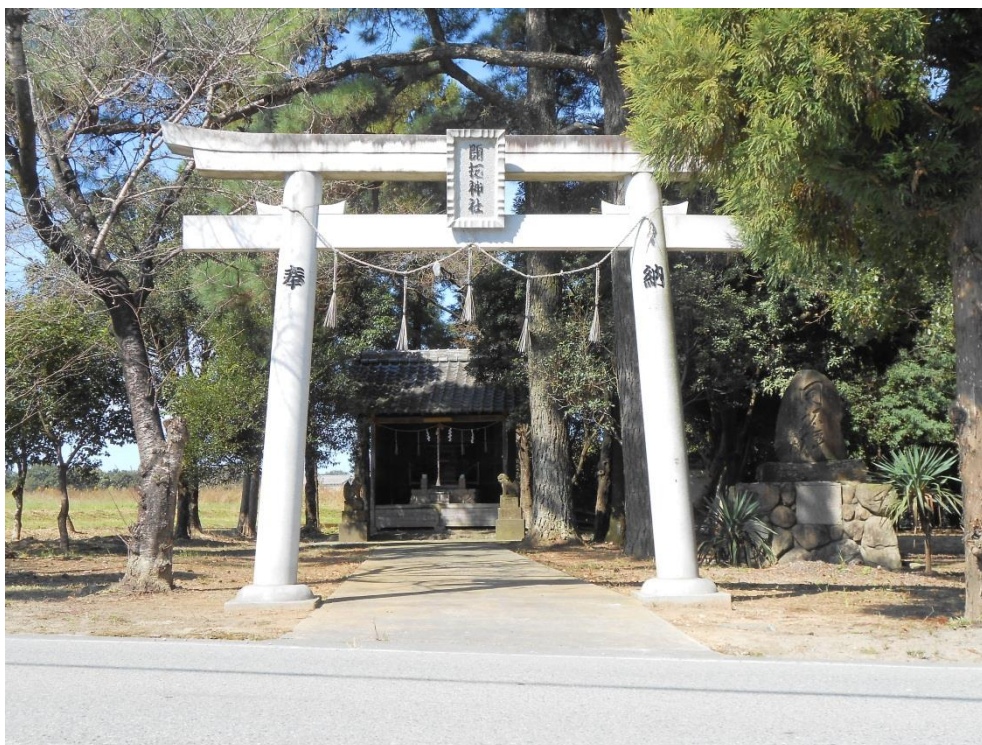
翌年、草加野開拓農協設立。米の配給が少なく、生産を目指したが、高原で水源に乏しかった。手作業で開墾した畑にサツマイモやジャガイモなどを作付けし、主食とした。また、旱魃に強い葉タバコの作付けの許可が出て、貴重な現金収入源となった。

食料と水の苦労が続いた。国営事業として51年に完成した「東条ダム」（東条湖鴨川ダム）の水を開拓地に揚水する計画が、55年に採択された。58年、揚水ポンプが始動し、初めて水稻の作付けを行った。ようやく耕地は水田化され、生活は安定するようになった。

60年、開拓農協は入植50周年を記念して、開拓神社と記念碑を建立した。境内にある記念碑の碑銘は「開拓碑」。

下部の碑文には「宿望の水田化は、昭和三十一年着工、同三十三年六月東条ダムの揚水に成功し、今や三十余町歩の美田を見る。かくて他方、乳牛飼育、煙草耕作と相俟って、漸く生活の基盤を築く。これ一つに、我等の親和と協力による開拓精神の象徴である」と記されている。





・ 碑文記載内容

(前面上部)



※ 阪本 勝：当時の兵庫県知事（記念碑題字を揮毫した。）

(前面下部・縦書き)

満洲滨江省北二屯を引揚げた、養父郡出身の吾々は、昭和二十一年二月十一日、こゝ草加野の地に一畝を下す。

爾来十有五年、食糧難に耐え、生活苦と斗ひつゝ、自らの手で住居を構え、道路を拓き、耕地七十余町上歩を算す。

而して、宿望の水田化は、昭和三十一年着工、全三十三年六月東條ダムの揚水に成功し、今や三十町歩の美田を見る。

かくて他方、乳牛飼育、煙草耕作と相俟って、漸く生活の基盤を築く。

これ一つに、我等の親和と協力による開拓精神の象徴である。依ってこゝに記念碑を建て、過去を偲ぶと共に将来の戒とする。

昭和三十五年三月

草加野開拓農業協同組合

・当該地区の沿革等

草加野開拓は、民有と一部村有の原野が戦後国の緊急開拓政策により買収され、満州よりた引揚げた満州国滨江省東興県北二屯第 9 次養父開拓団の団員とその縁故者で構成された 40 数戸が入植してきたことに始まる。それ以降の沿革は、次の表のとおりである。

年 月	事 項	備 考
S 21. 12	第1次入植20名。	
S 22. 2	第2次入植28名。	
S 23. 12	草加野開拓農業協同組合設立。	
S 33. 3 6	草加野万勝寺水利組合結成。 東条ダムより揚水成功。	
S 35. 5 7	入植15周年を記念し、開拓神社と記念碑を建立。 小野市開拓組合合同事務所新設。(市内6組合合同)	
S 40. 12	入植20周年記念式典開催。『沿革誌』(【2】)発行。	
S 50. 12	草加野開拓農業協同組合解散式開催。	
S 51. **	『解散誌』(【3】)発行。	
H 2. 4	草加野開拓農業協同組合解散。	

沿革を作成するにあたって、県開連と小野市立図書館に保管されていた文献より引用した。